



Title	ごあいさつ
Author(s)	田口, 鐵男
Citation	癌と人. 2013, 40, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24906
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ご あ い さ つ

理事長 田 口 鐵 男*

皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、公益財団法人大阪癌研究会に対し、格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昭和10年に大阪財界、有志の方々のご支援により本財団の前身である「大阪癌治療研究会」が設立され、西日本におけるラジウム治療のセンターとして役割を果たして来ましたが、戦後アイソトープの時代となってラジウム事業を終えることになり、昭和39年から「癌に関する学術研究助成事業と癌に関する知識の普及活動」を目的として「財団法人大阪癌研究会」と名称を改めました。

更に、新しく制定された公益法人制度により、平成23年4月1日に「公益財団法人」として認定され今日に至っております。この間、深いご理解とご支援をいただきました企業を始め多くの市民の皆様に、改めて心からお礼申し上げます。

さて、昨年、京都大学の山中伸弥教授がiPS細胞（人工多能性幹細胞）の樹立により、ノーベル生理学・医学賞を受賞されるという我が国にとって明るいニュースがありました。

このたびの受賞は、地道な基礎研究の積み重ねによって得られた成果の賜で、我が国の多くの研究者の研究意欲を鼓舞させるものであるとともに、今後、難病のメカニズムの解明や新薬の開発、再生医療の実現に向け大きな期待が寄せられています。

これを契機に、科学技術研究の推進の意義や重要性に関する社会的関心が高まることとなったことは、科学技術創造立国を標榜する我が国にとっては誠に喜ばしいかぎりであります。また、本財団にとりましても、癌に関する研究を奨励助成する事業の大切さを再認識する機会となり、改めて事業の推進に意を強くしたところであります。

本財団は、癌に関する学術研究を奨励助成し、癌を徹底的に解明してその撲滅を図るとともに、癌に関する知識を一般に普及することを目的としています。

この目的を達成するために、これまで次の事業を長年にわたり全国的に実施してまいりました。

- （１）癌に関する研究を行う者に対する研究助成（一般学術研究助成及び癌臨床試験研究助成について、研究機関等から癌に関する研究を公募し、助成を実施。）
- （２）癌に関する知識の普及、啓発活動（会誌「癌と人」の発行と無償配布）
- （３）財団の目的を達成するために必要なその他の事業

これらの事業の全ては、企業や市民の皆様方からの貴重な浄財により賄われていますため、運営の基盤となる寄附金の確保が極めて重要となっております。

本財団といたしましては、事業の更なる充実を図り、癌医学の発展に貢献することにより、本財団の社会的使命を果たしたく念じておりますので、今後とも多くの皆様方の力強いご支援とご理解を賜りますよう切にお願い申し上げます。

*公益財団法人大阪癌研究会理事長、大阪大学名誉教授